



2
卷之四
全



月

〃 新 山 山 山 山 山

戸のしほとま種くさくさなまはだ
 いつともくむりれきま炭の龜
 お願のこぼれくさくさ 枯れま
 依ん通ひの川へ入る身
 一さの中もさくさおちりるさ
 せうとくくくくくくくくくくく
 とり跡の跡のまおんゆる月の照
 ゆきくくくくくくくくくく

会 丈 鳥 丈 会 丈 会 丈

花

山 山 山 山

名 跡 山 山
 花のあつるまはくさくさなまはだ
 揺るまはくさくくくくくくくく
 ちのくさくくくくくくくくくく
 にくくくくくくくくくくくく
 ちくくくくくくくくくくくく
 おまはくくくくくくくくくく

会 丈 会 丈 会 丈 会 丈

狂

ちやうらうちやうらうちやうらうちやうらう
 酔もたつちやうらうちやうらうちやうらう
 明のちやうらうちやうらうちやうらう
 暗もたつちやうらうちやうらうちやうらう
 痛もたつちやうらうちやうらうちやうらう
 そらちやうらうちやうらうちやうらうちやうらう

行会
 眉年
 舎
 年
 舎
 年
 舎
 年

新うらうちやうらうちやうらうちやうらうちやうらう
 年ちやうらうちやうらうちやうらうちやうらう
 ちやうらうちやうらうちやうらうちやうらうちやうらう
 ちやうらうちやうらうちやうらうちやうらうちやうらう
 ちやうらうちやうらうちやうらうちやうらうちやうらう
 ちやうらうちやうらうちやうらうちやうらうちやうらう
 ちやうらうちやうらうちやうらうちやうらうちやうらう
 ちやうらうちやうらうちやうらうちやうらうちやうらう
 ちやうらうちやうらうちやうらうちやうらうちやうらう

舎
 年
 舎
 年
 舎
 年
 舎
 年
 舎
 年
 舎
 年

末はくらはみ又行か
 よき日やらし七お燬
 いまーき檢校まり此
 候も人此居らぬま
 花の世もさう流るる
 川よきまゝくくく
 年 舎 年 舎 年 舎 年

勤うはと居るあま
 月の如くも侍は
 秋もや火もさく
 羊もつける浴衣
 お役のち残もく
 急も印もく
 年 舎 年 舎 年 舎 年

傘はちと来感のさしつもの
 ようくおのちの代糸
 りまゆ交舞のゆき道
 除れらるるのさしつもの
 又たの路あふむさしつもの
 人の心さしつもの
 ゆきさしつもの
 しらふさしつもの

念 念 念 念 念 念

大事はさしつもの
 人の心さしつもの
 又たの路あふむさしつもの
 人の心さしつもの
 ゆきさしつもの
 しらふさしつもの

念 念 念 念 念 念

一 亀 龜 龜 龜 龜
二 龜 龜 龜 龜 龜
三 龜 龜 龜 龜 龜
四 龜 龜 龜 龜 龜
五 龜 龜 龜 龜 龜
六 龜 龜 龜 龜 龜
七 龜 龜 龜 龜 龜
八 龜 龜 龜 龜 龜
九 龜 龜 龜 龜 龜
十 龜 龜 龜 龜 龜

龜 龜 龜 龜 龜

一 龜 龜 龜 龜 龜
二 龜 龜 龜 龜 龜
三 龜 龜 龜 龜 龜
四 龜 龜 龜 龜 龜
五 龜 龜 龜 龜 龜
六 龜 龜 龜 龜 龜
七 龜 龜 龜 龜 龜
八 龜 龜 龜 龜 龜
九 龜 龜 龜 龜 龜
十 龜 龜 龜 龜 龜

龜 龜 龜 龜 龜

因もあけまのちもいぬ後には
むらけいりし眼をえり
むらけいりし眼をえり
おきまのこころはかき
名残もあつぬりよのちか
さし—その神のこころ
あつら—ま兄ちねとあるま
このちろみせはひのちか

舎 歩 歩 歩 歩 歩 舎

あけあをねまのこころ
もむらけいりし眼をえり
むらけいりし眼をえり
おきまのこころはかき
名残もあつぬりよのちか
さし—その神のこころ
あつら—ま兄ちねとあるま
このちろみせはひのちか

舎 歩 歩 歩 歩 歩 舎

けいりやうと 草一 草一
 夕月も けいりやうと 草一
 風も けいりやうと 草一
 町も けいりやうと 草一
 花も けいりやうと 草一
 けいりやうと 草一

并舎
 小舎
 舎
 舎
 舎
 舎

けいりやうと 草一
 夕月も けいりやうと 草一
 風も けいりやうと 草一
 町も けいりやうと 草一
 花も けいりやうと 草一
 けいりやうと 草一

舎
 舎
 舎
 舎
 舎
 舎

うららかにさるのまはるもそらに
不即れまゝさるる者戸細
まゝなまをたりの花のあはれ
あゝこのまはるとあはれ
すくすくまの布子のまはれ
くらにまゝあるまゝ
休むをたれまゝ
はらにまゝ

念 念 念 念 念 念

お七おのうらまはるまはる
あゝこのまはるとあはれ
まゝなまをたりの花のあはれ
あゝこのまはるとあはれ
すくすくまの布子のまはれ
くらにまゝあるまゝ
休むをたれまゝ
はらにまゝ

念 念 念 念 念 念

新米の道くさくさふきまのり
もりのりくさくさくさのり
んくけもかかかかかかか
孫のよさか海も地もあき
日くけくさくさくさくさくさ
楷くさくさくさくさくさくさ

念 念 念 念 念

かかかかかかかかかかか
あかかかかかかかかかか
もりのりくさくさくさくさくさ
ちくさくさくさくさくさくさ
隣の入くさくさくさくさくさ
ま秋時の飯もかりけり

花 念 念 念 念
念 念 念 念 念

山伏のふあおるしと信のあま
肥くみあふさかおるは嫁
風物見くあうのあわい
子あふさか机積り
冠あふさか月夜うらむおそ
むらさか角力あふさか
あふさか汗
色巻のたはあふさか

会 鴻 会 鴻 会 鴻 会 鴻 会

あふさかゆさ枝と家也
朝あふさかハ朝な
きぬのあふさか梅あふさか
さふさかたらくさのふさか
あふさか又朝あふさか
あふさか
あふさか
あふさか

会 鴻 会 鴻 会 鴻 会 鴻 会

いふゆゑにふしむるはなほ
海らぬるをいふはくち
もいふらむはなほいふ
もいふらむはなほいふ
いふらむはなほいふ
いふらむはなほいふ
いふらむはなほいふ
いふらむはなほいふ

會 照 令 同 照 令 照 會

たそむるはなほいふはくち
いふらむはなほいふはくち
いふらむはなほいふはくち
いふらむはなほいふはくち
いふらむはなほいふはくち
いふらむはなほいふはくち
いふらむはなほいふはくち
いふらむはなほいふはくち

照 會 照 會 照 會 照 會

湯より入るまゝなるなりぬの純の毎
うりまゝにゆる裾のみりさ
捨授の付るまゝのまゝ我つま
りまゝにまゝにまゝに
ぬきぬきしりけくおのちのま
ぬきぬきしりけくおのちのま

照令照令照令

付るまゝにまゝにまゝに
又ふまゝにまゝにまゝに
おのちのまゝにまゝにまゝに
中めりまゝにまゝにまゝに
名目まゝにまゝにまゝに
おのちのまゝにまゝにまゝに

若令
井令
令
左令
右令
左令

赤も牛もおのこは信の翁れ
 見事な成へまはるる
 縁のさゆハ今れおまらる
 十の丸あるおみしは
 何れもやまは福くして
 くらゐもたはるる
 昔はさきもあつた
 信くももくもく

舎 左 舎 左 舎 左 舎

赤も牛もおのこは信の翁れ
 見事な成へまはるる
 縁のさゆハ今れおまらる
 十の丸あるおみしは
 何れもやまは福くして
 くらゐもたはるる
 昔はさきもあつた
 信くももくもく

舎 左 舎 左 舎 左 舎

引越と毎て地よりいし
酔ぬうちもいぬいし
けちもいぬいし
さみれあくはるき
眉さつとも自由よ
もや悟えれ世話
こころの事業も
男のむかし
左 舎 左 舎 左 舎 左 舎

いしよとに射あつ
残るは中から
より流るは
よあつて
控もいぬいし
いしよとに射あつ
左 舎 左 舎 左 舎 左 舎

今あふとくまきへまの細代お
まめしめ織子おとくも
さあともいふの縁にまゆに
病はけしとんていさか
内川のあつと申さるゆり
うさし何はともよれ勤うぬ
あはちちなまおとくまゆら
あまのけしとくまゆら
あまのけしとくまゆら
あまのけしとくまゆら

并舎
岱齡
舎
齡
舎
齡

今あふとくまきへまの細代お
まめしめ織子おとくも
さあともいふの縁にまゆに
病はけしとんていさか
内川のあつと申さるゆり
うさし何はともよれ勤うぬ
あはちちなまおとくまゆら
あまのけしとくまゆら
あまのけしとくまゆら
あまのけしとくまゆら

舎
齡
舎
齡
舎
齡

白事も賑しくあはれ
あつたか
このはれ振るも
根毎の井も
さき頃の
あつたか
ちんちん
に付る

會 歌 令 同 會 齡 會

あつたか
あつたか
あつたか
あつたか
あつたか
あつたか
あつたか
あつたか
あつたか
あつたか

會 歌 令 同 會 齡 會

風おのめやあはれあはれくちる流る
孫之方一此皆戸あけ置
戸破を色印とあるあはれあはれ
さささあはれあはれと人いけの
さあめらももあはれあはれ九
あはれあはれあはれあはれあはれ

歌 會 歌 會 歌 會 歌

離りして市之中此あはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

并 會 知 會 風 會 風 會 風

海よなまらあ〜く〜るあ〜秋のいろ
 船 流のまらも 拍子らうこ
 うまの〜いかに 夢ハ海に〜か威
 〜〜〜く〜ら〜い〜ち〜も
 くの〜く〜 確のまら〜
 大も〜ら〜は〜く〜 尋路の所
 月のまら〜あ〜く〜い〜く〜あ〜い〜く〜
まら〜船のまら〜い〜く〜あ〜い〜く〜あ〜い〜く〜
 風 空 風 空 風 空 風 空

ああめ〜は〜海のまら〜く〜く〜に板打
 江戸 其家ア〜く〜い〜く〜く〜く〜
 ち〜〜〜〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜
 出代町のまら〜く〜く〜く〜く〜
 切風のまら〜く〜く〜く〜く〜く〜
 ながあ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜
 ち〜〜〜〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜
 うまのまら〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜
 うまのまら〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜
 風 空 風 空 風 空 風 空

ききまのさしりすのさしり
細代さしりつるさしり
とさしりさしりさしり
嫁入ぬ先さしりさしり
暇のさしりさしりさしり
あさしりさしりさしり
さしりさしりさしり
一把さしりさしりさしり

空風鳥風舎空風

増しぬさしりさしり
さしりさしりさしり
さしりさしりさしり
さしりさしりさしり
さしりさしりさしり
さしりさしりさしり

空風空風空風

うききこいへてわらわをいふは 七言
 うききこいへてわらわをいふは 七言
 うききこいへてわらわをいふは 七言
 うききこいへてわらわをいふは 七言
 うききこいへてわらわをいふは 七言
 うききこいへてわらわをいふは 七言
 うききこいへてわらわをいふは 七言
 うききこいへてわらわをいふは 七言
 うききこいへてわらわをいふは 七言
 うききこいへてわらわをいふは 七言

合
 羞
 羞
 羞
 羞
 羞
 羞
 羞
 羞
 羞

こころしほくちふゆの 燈
 こころしほくちふゆの 燈
 こころしほくちふゆの 燈
 こころしほくちふゆの 燈
 こころしほくちふゆの 燈
 こころしほくちふゆの 燈
 こころしほくちふゆの 燈
 こころしほくちふゆの 燈
 こころしほくちふゆの 燈
 こころしほくちふゆの 燈
 こころしほくちふゆの 燈

并合
 仙夢
 羞
 羞
 羞
 羞
 羞
 羞
 羞
 羞

燒帛七香花もくすくす
 もつりさやのあもりの
 新香も不飲ちねの成筋
 何れもやらまの香板
 こももよふまけのたのや
 解ふよもあつらひし

香 香 香 香 香 香

香へんたのあもりの
 香もあはつちの香川
 通りのけらるぬ人のあ
 新香もあつちの香板
 月あつちの香板
 香もあつちの香板

香 香 香 香 香 香

花のむし 寄るもあつめも 世は治身
婦 尊 身 中 たる ため 以 強 壯
又 耶 波 あり 此 操 婦 たる 氣 あり 治 身
も 治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
こり 治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
入 口 狭 く 治 身 あり 治 身 あり 治 身
天 治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身

會 良 會 良 會 良 會 良 會 良 會 良

沙 治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
さ 治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身
治 身 あり 治 身 あり 治 身 あり 治 身

會 良 會 良 會 良 會 良 會 良 會 良

くはるの清くもあまの能年こそ
さししうさふも年とあはし
訂端のまじきしあはちまふ
清のまんとしあめつはし
さのこもあはちあはちのあ
あはちあはちあはちあはち
あはちあはちあはちあはち
あはちあはちあはちあはち

良 舎 良 舎 良 舎 良 舎

あまの清くもあまの能年こそ
さししうさふも年とあはし
あまのまじきしあはちまふ
清のまんとしあめつはし
さのこもあはちあはちのあ
あはちあはちあはちあはち
あはちあはちあはちあはち
あはちあはちあはちあはち

良 舎 良 舎 良 舎 良 舎

三

三

風のそよを月を北小控軒
 志_る 一_く する。おの_ま 魁
 明の湯も_を 花をたけ_の 念_も 志_を
 交代す_に 花_の 所_の 心_を 心_を
 何_ら 心_を 心_を 何_ら 心_を 心_を
 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を

心_を 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を
 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を
 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を
 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を
 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を
 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を 心_を

三十一

三十二

結身つら 待もろ ちかき ぬもりの せん
種少あやましく ありの 習ひ 家
さしおこし けり 梅を 折次 身
ほしは ありの ちかき けり ちかき 川
ぬりし ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき
あやましく 梅の けり 梅
りし ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき
けり 少信 けり 又 ちかき ちかき ちかき

令 堂 奎 同 堂 室 堂 舍

あまの 糖 糖の 町 けり 梅 ちかき ちかき
けり けり けり ちかき ちかき ちかき ちかき
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき
ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき

南 堂 室 堂 舍 堂 舍 堂

弱足ももろもろのつらさゆへに
お夢は寝るもさうもあつし
後舟の船 伴もさうもひもぢ
くもりのまるとたのめ
寝はかへるいけもなもあつし
ゆへにさうも船もさうもあつし
窓 窓 窓 窓 窓

あつしゆへにさうも船もさうもあつし
窓 窓 窓 窓 窓
作向もももさうもさうもあつし
窓 窓 窓 窓 窓
ゆへにさうも船もさうもあつし
窓 窓 窓 窓 窓
ゆへにさうも船もさうもあつし
窓 窓 窓 窓 窓
ゆへにさうも船もさうもあつし
窓 窓 窓 窓 窓

結納の事いそいでしるはれ
ゆきゆきとておぼゆる
もとの人いそいでしるはれ
たのちのゆくゆくは
そいよ梅の枝もさかす
さかすあゝるはゆきゆき
市井の匂いもいそいでしるはれ
あゝるはゆきゆき

岳 岳 岳 岳 岳 岳 岳

梅の枝もさかす
あゝるはゆきゆき
もとの人いそいでしるはれ
たのちのゆくゆくは
そいよ梅の枝もさかす
さかすあゝるはゆきゆき
市井の匂いもいそいでしるはれ
あゝるはゆきゆき

岳 岳 岳 岳 岳 岳 岳

并舎
 碧中
 中舎
 中舎
 中舎
 中舎
 中舎
 中舎
 中舎

中舎
 中舎
 中舎
 中舎
 中舎
 中舎
 中舎
 中舎
 中舎

大おまをい〜〜〜此馬小休
 ああさ〜さ〜お〜さ〜り
 こ〜の〜ふ〜ん〜の〜も〜あ〜ち〜
 其の名跡を愛する杖
 人〜く〜も〜世〜信〜た〜つ
 石のさ〜さ〜〜少〜風〜の〜け
 け〜の〜さ〜さ〜も〜十〜名〜授〜も
 け〜の〜さ〜さ〜も〜十〜名〜授〜も
 色 中 舎 同 中 舎 中 舎

百屋坊此内〜とんと〜大〜
 ち〜く〜名〜さ〜け〜さ〜め〜り〜お
 通〜着〜色〜も〜中〜の〜あ〜も〜
 や〜さ〜さ〜の〜後〜も〜た〜ぬ〜も〜梅
 職人〜と〜り〜る〜免〜角〜の〜気〜は〜も〜さ
 新〜し〜も〜さ〜さ〜の〜後〜の〜あ〜ち〜ぬ
 こ〜の〜さ〜さ〜も〜十〜名〜授〜も
 新〜し〜も〜さ〜さ〜の〜後〜の〜あ〜ち〜ぬ
 色 中 舎 中 舎 中 舎 中 舎

能くまへきつひに
 大津かきつひに
 まつりも夏かの
 神のまへきつひに
 まつりも夏かの
 神のまへきつひに
 まつりも夏かの

中
 宮
 中
 宮
 中
 宮

能くまへきつひに
 大津かきつひに
 まつりも夏かの
 神のまへきつひに
 まつりも夏かの
 神のまへきつひに
 まつりも夏かの

中
 宮
 中
 宮
 中
 宮

先づうらなひのて ちぢまうり
人さぬちぢまうり
新くくちぢまうり
月鏡うけちぢまうり
こま年つら内美れぬちぢま
そつとちぢまうり
ちぢまうり
ちぢまうり

會 槐 宮 槐 金 槐 會 槐

新くくちぢまうり
月鏡うけちぢまうり
こま年つら内美れぬちぢま
そつとちぢまうり
ちぢまうり
ちぢまうり
ちぢまうり
ちぢまうり

會 槐 宮 槐 金 槐 會 槐

侍る中よりさしむ。さしむ女(しん)
なごめ 舞(ま)ひのり(り)のり(り)
あら舞(ま)ひも 乾(く)ぬぬぬ(ぬ)のり(り)
さしむれ(れ)のり(り)ハ(ハ)さしむ(む)のり(り)
さしむ(む)又(又)さしむ(む)のり(り)のり(り)
ゆり(り)のり(り)のり(り)のり(り)
月(げ)け(け)れ(れ)のり(り)のり(り)
さしむ(む)のり(り)のり(り)のり(り)

令 槐 令 槐 令 槐 令 槐

さしむ(む)のり(り)のり(り)のり(り)
お(お)のり(り)のり(り)のり(り)のり(り)
さしむ(む)のり(り)のり(り)のり(り)
刺(さ)すのり(り)のり(り)のり(り)
さしむ(む)のり(り)のり(り)のり(り)
お(お)のり(り)のり(り)のり(り)のり(り)

令 槐 令 槐 令 槐 令 槐

うゝゝゝゝゝゝゝのなまゝの掃
ねんぢ
 角うゝゝゝ持好ゝゝゝの産産子
 あれ好ゝゝの好ゝゝゝゝゝゝゝゝ
 何ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 多ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 らゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ゑゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ゑゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

会 年 書 書 書 書 書 書

ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

行 会 拍 年 書 年 書 年 書

次々として寝たきりの御侍
 けりて海のつくりも
 又々居れどもその世も
 善悪もさかす輪のちり
 つらひも世もあつたか
 投こむやうな遠く小
 井は池のおとちの
 岸のつれづれに母度
 全 年 會 同 後 宅 年 令

先々も世のつれづれ
 春のつれづれに
 名のつれづれに
 耳もつれづれに
 神喜のつれづれに
 つれづれに
 控のつれづれに
 さらりともさかす
 年 會 自 宅 年 會 年

ときらふ物さしとて此石は合
 せりしころのさしつゝのさしめ
 りつゝのさしつゝのさしめ
 めのさしつゝのさしめ
 細のさしつゝのさしめ
 うさしつゝのさしめ

合 年 合 年 合 年

はさしつゝのさしめ
 さしつゝのさしめ
 丸大つ挽おのさしめ
 とさしつゝのさしめ
 くさしつゝのさしめ
 さしつゝのさしめ

丹 合
 丹 合
 丹 合
 丹 合
 丹 合
 丹 合

五

おもひぢりて暁らそふももつらり
ききよふももつらり
かきよふももつらり
かきよふももつらり
かきよふももつらり
かきよふももつらり
かきよふももつらり
かきよふももつらり

令 栞 舍 柯 高 栞 令 栞

まののうちとこりもつらり
まののうちとこりもつらり
まののうちとこりもつらり
まののうちとこりもつらり
まののうちとこりもつらり
まののうちとこりもつらり
まののうちとこりもつらり
まののうちとこりもつらり

令 栞 舍 同 栞 舍 栞 令

絶針の失くし高申るる気さかり
 ちやぬれおらさし廿の巾一
 子鞋のあしけさるるにのあお
 うけももあしけさるるにのあお
 あしけもあしけさるるにのあお
 うけももあしけさるるにのあお
 月うけれあしけさるるにのあお
 さしけもあしけさるるにのあお

柯 舍 栢 宅 栢 舍 栢

十のあしけさるるにのあお
 ぬれおらさし廿の巾一
 子鞋のあしけさるるにのあお
 うけももあしけさるるにのあお
 あしけもあしけさるるにのあお
 うけももあしけさるるにのあお
 月うけれあしけさるるにのあお
 さしけもあしけさるるにのあお

栢 舍 宅 栢 舍 栢

たまたまふらふらぬきみり月
漸おぼこまゝる龍崎の春
深きのをまをねくまきしひやく
そらにこそと世旅のあらは
きよい世にこそ一葉かたひら
秋のちのけくさきのわやけ松
并舎
路松
舎
松
宅
松

ふみの一葉にけくさきのわやけ
秋のちのけくさきのわやけ松
みよい世にこそ一葉かたひら
そらにこそと世旅のあらは
きよい世にこそ一葉かたひら
秋のちのけくさきのわやけ松
并舎
路松
舎
松
宅
松

唐紙とあるらぬ。いふはし
 横のまゝの白子城のまゝに
 ちりやうと一いさゝ花のうらた
 涌のまゝもゆるむゆゑ
 つらきぬかきうさゝものさ
 暖のまゝのまらふかめらぬ
 けされかゝるまゝもらぬた
 高のまゝのゆゑ一まゝの
 松 宮 松 宮 松 宮 松 宮

點紙とあるらぬ。いふはし
 横のまゝの白子城のまゝに
 ちりやうと一いさゝ花のうらた
 涌のまゝもゆるむゆゑ
 つらきぬかきうさゝものさ
 暖のまゝのまらふかめらぬ
 けされかゝるまゝもらぬた
 高のまゝのゆゑ一まゝの
 松 宮 松 宮 松 宮 松 宮

あはれなる心と高き節に清
きあはれと答ふと居申されし
戸もあはれと答ふと居申されし
つらねと答ふと居申されし
あはれなる心と高き節に清
きあはれと答ふと居申されし

松 庵 松 庵 松 庵

あはれなる心と高き節に清
きあはれと答ふと居申されし
戸もあはれと答ふと居申されし
つらねと答ふと居申されし
あはれなる心と高き節に清
きあはれと答ふと居申されし

松 庵 松 庵 松 庵

五十六

五十六

清うらのそよぶにわらわのそよぶを
くしかりとせよわらわのそよぶを
とよむもよむもよむとくしかりと
さしかりとせよわらわのそよぶ
わのそよぶをわらわのそよぶを
そのそよぶをわらわのそよぶを
夕白又やうとわらわのそよぶを
仔細おぼしめせよわらわのそよぶ

会 玉 宮 玉 宮 玉 宮 玉 会

り列のつらぬをわらわのそよぶを
あはれとせよわらわのそよぶを
まはれとせよわらわのそよぶを
わらわのそよぶをわらわのそよぶ
わらわのそよぶをわらわのそよぶ
わらわのそよぶをわらわのそよぶ
わらわのそよぶをわらわのそよぶ
わらわのそよぶをわらわのそよぶ

会 玉 会 玉 会 玉 会 玉 会

そらぎの芳ももろくえぬ哉ほゆと
少はもをそ天とそおふゆき
せしあきかたき眼さくお清の
ゆきくろきあきの雪をさくゆき
川流よもろくゆきお下やき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
雪のゆきゆきゆきゆきゆき
雪のゆきゆきゆきゆきゆき

玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉

ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき

玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉

鳴りけし梅よりなあらしくれ
 春め九節よりまじさのちる
 としあらしみの世子のねん
 海よりくもええるは列
 ようろうと天をたつてくふれ
 毎のうきけきゆる種は
 行舎 五朗 今 朗 今 朗

あまのこゝろはあまのこゝろ
 酔あけしと海よりなゆ
 女房よりあまのこゝろ
 まいりしあまのこゝろ
 梅くまてあまのこゝろ
 せんたのこゝろ
 あまのこゝろ
 めいしあまのこゝろ
 舎 朗 舎 朗 舎 朗 舎 朗

古酒もあつたよとあつたあつた
 りん子もあつたよとあつたあつた
 気はらうれいけいけいけいけいけ
 ちんちんちんちんちんちんちんちん
 氏あつたよとあつたあつたあつた
 悪いあつたよとあつたあつたあつた
 善いあつたよとあつたあつたあつた
 風もあつたよとあつたあつたあつた

朴 宅 朴 宅 朴 宅 朴 宅 朴 宅

あつたあつたあつたあつたあつた
 仲もあつたあつたあつたあつた
 何いあつたあつたあつたあつた
 ねいあつたあつたあつたあつた
 柳もあつたあつたあつたあつた
 人あつたあつたあつたあつたあつた
 ちんちんちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちんちん

宅 朴 宅 朴 宅 朴 宅 朴 宅 朴 宅

此の如くあはれなるをば
 ねのちりれなるをば
 ぬありの研ごもれ拵
 せんごの吃りくをき
 あかしくおあはれ
 あかしくもあはれ
 せんごの吃りくをき
 こゝろに
 密 朴 電 朴 密 朴 電 朴

此の如くあはれなるをば
 ねのちりれなるをば
 ぬありの研ごもれ拵
 せんごの吃りくをき
 あかしくおあはれ
 あかしくもあはれ
 せんごの吃りくをき
 こゝろに
 密 朴 電 朴 密 朴 電 朴

校るのちやくちやくと藤池ち
おるちうらにささるる月 可春
もんのふれせんあまのよさあ
たもあまのこもくさの片つ
井のぬもあまのこもあまの
とるあまのよさあまのよさあ

吾を却てもおのハゆるつてのれ
様つあまのち又もあまの
そ侍もゆかまの居れとらうおて
甲なまふ門を通るのも急
今目のうけあまのいさあは
まれうらうら釣すむら
あさるるあまのあまのあまの
人あまのあまのあまのあまの

とー 驚きし子けきるるるほしき
まひりー ことまきりの伸に
きりのはらぬ梅の枝ゆき
くくはらばきてけりゆき

る 驚きし子けきるるるほしき
まひりー ことまきりの伸に
きりのはらぬ梅の枝ゆき
くくはらばきてけりゆき

白ー うれしきもはらぬるる
ゆきー くるるるるるるる
ちのり梅の枝ゆき
ゆきー くるるるるるるる
お代にまきりぬるるるる
はらぬるるるるるるる
あゆみのゆきまきりぬるる
おまのまきりぬるるる

夕の影をうつしこころありあはれも
 まさきまきなるとかひの夕飯
 錦の灯は月の影をうつしこころあり
 東の空を此方ちりこころありぬ
 あはれもあはれこころありあはれも
 極くまじりてこころありあはれも
 時を屋をうつしこころありあはれも
 夕の影をうつしこころありあはれも

人 左 人 左 人 左 人

二五五

うららかに居るはるはるもあはれ
 夕の影をうつしこころありあはれも
 夕の影をうつしこころありあはれも
 夕の影をうつしこころありあはれも
 夕の影をうつしこころありあはれも
 夕の影をうつしこころありあはれも

行 舎 養 舎 養 舎 養

二五五

けとーこさめいほけいすいぬん
きんもむいけいすけいす
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく

五七

たのこさめいほけいすいぬん
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく

あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく
あまうさくさくさくさくさくさく

五七

まゝの娘の袖の味を
 ちいさく
 抱きよめ
 出まき
 伊勢の
 流子

六
 六
 六
 六
 六
 六
 六

初春の隣に
 うら
 あゝ
 頼も
 代つ
 老登
 縁も

六
 六
 六
 六
 六
 六
 六

谷川を中より流るる水もみちり
 木の葉はあはれもみちり
 山はあはれもみちり
 谷川を中より流るる水もみちり
 木の葉はあはれもみちり
 山はあはれもみちり

可春
 行舎
 春
 舎
 夾
 舎

おもひのこころのこころのこころ
 新らうとみちりもみちり
 山はあはれもみちり
 谷川を中より流るる水もみちり
 木の葉はあはれもみちり
 山はあはれもみちり

春
 舎
 夾
 舎
 春
 舎

新法のあやうき梅よりくさき
重なるははくしむるひりきり
やうのうらひのうらひのうらひ
梅もあやうきよりあやうき
角 夾 骨 夾

受きからぬあやうき
氷よりあやうきよりあやうき
角 骨 夾

いさよめーてはくしむるあやうき
錫よりあやうき 錫挽のあやうき
あやうきのあやうきよりあやうき
あやうきのあやうきよりあやうき
あやうきのあやうきよりあやうき
あやうきのあやうきよりあやうき
あやうきのあやうきよりあやうき
あやうきのあやうきよりあやうき
角 骨 角 骨 角 骨 角 骨

附^もも 送^りけ け^れ 上^りの^り
 髪^をち^りさ^ちな^りの^り
 ま^ぬぬ 振^馬と^かか^りの^り
 ゆ^め月^やむ^らの^り 露^石
 桶^を朝^もく^りの^り 白^の合^の
 う^らの^り 下^のの^り 下^のの^り
 ひ^らの^り

角 全 角 全 角 全 角 全

離^りて 市^を中^に 此^に
 橋^を守^りの^り 車^の
 か^のの^り 月^とと^のの^り
 ふ^いの^り 竹^の
 そ^のの^り

行^舎 秋^竹 竹^舎 竹^舎

九

雪一ろさめして海に秋の松

うらまはるゝあつるもいさく

ふゆに花舟を突ぬく海に福

急な結ぶの帯は志すのぬ

よふ年てゐるあつらぬお外海

船は出ぬりる綱は出るる

新月に映るるさしあまれこけ

洋崎まつり此灯もあつり

舎

竹

宮

竹

空

竹

舎

竹

乳

松のうららけのあつらぬ事

あつらぬ事

あつらぬ事

あつらぬ事

舎

竹

宮

竹

九

まつたの砂よまの清の乳

あつらぬ事

舎

英

二階へは福ありてなほいふ能し
 西の窓より見る花の影はなほ
 春の風も涼しいよさむる日の秋
 夕の霞かきよりの研をよみ鑑
 めつらうさるゝとせむらうら
 りぬるよきしり清き
 縁つとも花——つゆは信の
 ちりりうらうらけはるまぬ

英 美 英 会 英 令 英 令

花 舟 燈
 ころも中戸のくろくろ——記
 花の影もなほありてはるまぬ
 花の影もなほありてはるまぬ
 花の影もなほありてはるまぬ
 花の影もなほありてはるまぬ
 花の影もなほありてはるまぬ
 花の影もなほありてはるまぬ
 花の影もなほありてはるまぬ

英 令 英 会 英 会 英 令

かむしんふんふんふんふんふんふん
ふん ふん ふん ふん ふん ふん
ふんの人れは群 信のふんを招 招
たふん ふん ふん ふん ふん ふん
ふん ふん ふん ふん ふん ふん
ふん ふん ふん ふん ふん ふん

かむしんふんふんふんふんふん
ふん ふん ふん ふん ふん ふん
ふん ふん ふん ふん ふん ふん
ふん ふん ふん ふん ふん ふん
ふん ふん ふん ふん ふん ふん
ふん ふん ふん ふん ふん ふん
ふん ふん ふん ふん ふん ふん

乃ゆふもたぬ のまゝの けのまゝ
 しく けのまゝの けのまゝの けのまゝ
 ちのまゝの けのまゝの けのまゝの
 けのまゝの けのまゝの けのまゝの

咲さうのまゝのまゝのまゝのまゝの
 けのまゝの けのまゝの けのまゝの
 けのまゝの けのまゝの けのまゝの

け 細北のまゝのまゝのまゝのまゝの
 けのまゝの けのまゝの けのまゝの
 けのまゝの けのまゝの けのまゝの
 けのまゝの けのまゝの けのまゝの
 けのまゝの けのまゝの けのまゝの
 けのまゝの けのまゝの けのまゝの
 けのまゝの けのまゝの けのまゝの

板のちよびおのて連利ころたし
 出うらふ白よき風のかく
 舞合くくふて舞の田さより
 しもーらぬさりの子括
 よくはぬやらさあさ家のきほ
 名まことちねるもの同よすあ
 系一おおくまもふぬのち
 よしとがしものいぬら
 村舎 村舎 村舎 村舎

嘉永七甲寅夏村持

洛

愛靜社藏板

七

京田糸通寺西東八

法指物細所湖雲堂

巾江屋利助

